

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月25日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530919

研究課題名（和文） 小学校教員に必要な「古典力」育成のための教育プログラム開発

研究課題名（英文） Education program to foster the development of " Teaching faculty of Traditional language and culture matters " needed to elementary school teachers

研究代表者

三宅 晶子（MIYAKE AKIKO）

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：20181993

研究成果の概要（和文）：教員志望の大学生が、それまでに受けた古典の授業と、それについて持っている印象について、継続的に実態調査を行った。大学教員・学生・現職教員による研究会を開催し、積極的に古典を学び、教えたいという意欲を与えるカリキュラムと方法について検討した。それらの成果に基づき、大学の授業で使用可能なテキスト作成を行っている。

研究成果の概要（英文）：We surveyed the students who will be teacher about their Japanese classical literature. Professor Student and Teachers held a study group and we thought a better approach actively learning the classic. Now we have created, the text that you want to use in college.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学、教科教育学

キーワード：古典・古文・漢文・伝統的言語文化・国語教育・小学校国語・初等教育

1. 研究開始当初の背景

平成21年度から施行された新学習指導要領では、小学校国語教育において、第一・第二学年から古典教育を開始することが、明記された。これによって小学校教員は、低学年から古典教育を始めなければならなくなった。小学校低学年から古典に親しむ教育をするという提案は、中学校からでは遅いという危機感の現れであろう。現在の中学では、古典の文章や内容の難しさが先に立ち、古典嫌いの生徒が多い。これが高校・大学まで尾を引き、結局の所、教員志望の大学生において

も、その傾向は変わらない。教える側の教師できえ、小学校はおろか、中学校国語科教員の多くが、古典に興味を持っておらず、苦手なのが現状である。彼らがすでに、中学・高校時代に古典嫌いになってしまった世代なのだから、当然とも言えよう。

計画的教員養成を目的とする大学に在職し、小・中・高校現場の教員とも接する機会が多い立場として、如何にして古典の好きな、得意な教員を育てるかということが急務の課題であると考えてに至った。

なお研究代表者（三宅）と分担者（高木）

は、平成 19・20 年度に、神奈川県立総合教育センターと横浜国立大学の連携研究に参画し、「国語力」育成に関する教材開発に向けた基礎研究」のスーパーアドバイザーを勤め、神奈川県下の公立、及び横浜国立大学附属の小・中学校教諭数名とともに、小学校低・中・高学年向けの古典に関する紹介ビデオ作成と、サブテキストを作成した。

上記の連携研究は、本研究計画の準備研究として位置づけられる。両名は当該研究を通じて、小・中学校の現職教員から現場の生の声を聞き、小・中校の教育現場の課題が「古典力」の構造的な不足にあるとの認識に達した。初等・中等教育の現場における古典教育の現状を把握出来たことは、本研究の具体的な方法を構想するために大いに役立ち、また、本研究が教育改革上の急務であることを確信するに至った。

2. 研究の目的

研究代表者、分担者が携わってきた、古典文学研究において培われた読解力・知識・考え方などを基盤に据えながらも、現代という時代に即応した実践的な大学教育カリキュラム開発を目指す。古典文学研究者と国語教育・書写教育学者が連携することによって、現実に即し、小学校現場のニーズに応えられる教員を養成するための、効果的なカリキュラム開発を目的としている。

本研究課題で用いている「古典力」とは、日本の伝統的言語文化の事項全般を継承・発展させ、更には国際人として将来必要となるような日本人の基本的教養という意味において、日本の歴史や文化、古い時代の生活習慣の全般にわたる、古典に対する知識・能力という意味で使用している。本研究は、大学教育、あるいは現職教員も含む社会人教育を通じて、小学校教員に必要とされる「古典力」を育成するための体系的なプログラムを開発するものである。

3. 研究の方法

3つの観点からのアプローチ

(1) 「古典力」調査アンケートの実施

- ①準備研究の成果に基づき、アンケートの方法、質問の内容などの適不適を検討の上、改良
- ②平成 21～24 年度の学生達にも、改良型のアンケートを実施
- ③年度別の違いや、アンケート方法の違いで、明らかになる特色の相違を分析・考察
- ④「古典力」調査の方法、アンケートの定

型化の確立をめざす。

(2) 国語教科書・指導書、関連視聴覚教材、教材研究のための古文・漢文関連図書の体系的収集と公開をして、学生・卒業生その他必要に応じて資料調査が手軽に出来る環境を整備する。

(3) 今必要な学部・大学院の教育内容と授業方法を明らかにする。

①学部生対象のアンケートをもとに、大学院の授業・月一回程度行われる研究会において、新しい教育プログラムをデザインしていく。

②学部生・大学院生・現職教員などと討議を行うことで、今日の古典教育の特色を洗い出し、改善すべき点、あるいは全く新しい観点からの教材・教具を開発し、カリキュラムを作り出していく。

(4) 小学校教員志望の大学生・社会人向けの、テキスト作成を行う。以下の4つの柱を重視

- ①現代語訳ではない読解力の向上
- ②品詞分解の暗記ではなく作品読解に役立つ実践的な文法教育
- ③生活・文化に関する興味喚起
- ④歴史・思想的視点の導入

4. 研究成果

研究代表者は、計画的教員養成を目的とする大学・大学院教育を主な仕事とすることとタイアップして、教育学研究科における新しい指針を打ち出すために、横浜国立大学 学内重点化競争的経費、2009年度～2011年度「教育デザイン研究」、(研究代表者、5,670,000円)を獲得した。

横浜国立大学大学院教育学研究科改組のための研究である。近未来に役立つ教育に関して、現場との関わりを重視しつつ、教員・教諭・学生が連携しながら個々の研究を推進する「教育デザイン」構想を打ち立て、改組の基本理念を作りだした。古典教育デザインというテーマで、科学研究費による研究も、大学院教育と直結、年二回の研究集会(教育デザインフォーラム)、年会誌『教育デザイン研究』発行を行い、現場への発信もスムーズに行えるシステムを整備したことは、大きな成果であると考えられる。

そのなかで、特に大学教育、あるいは現職教員も含む社会人教育を通じて、小学校教員に必要とされる「古典力」を育成するための体系的なプログラムを開発することを目指して、三年間で以下のことを行った。

(1) 2008昨年度から始めた「古典力」調査アンケートの実施。

- ①横浜国立大学教育人間科学部学校教育課程1年次必修の小教専国語の授業を利用して、一年生全員230名を対象に、古典の読解力・基礎知識の学力調査を行った。そのデータ入力・分析は協力者(謝金)の近藤弘子さんがまとめ、『横浜国大国語教育研究』に発表している。
- ②①のアンケートの内容を、当初はどんな本を読んだことがあるかを中心に調査していたが、本研究の3年間は、簡単な実力テストと、高校までに受けてきた古典教育についての具体的な感想を聞く形に変更し、3年連続で同じ質問形式で実施、3年間の共通点と変化を分析出来るようにした。
- ③3年目の調査報告と、全体の総合的分析は、現在準備中であるが、本課程在学の学生達は、大旨古典そのものが嫌いと言うよりは、中学・高校における授業の方法と、受験体制の中で無理矢理暗記という形で取り組まされたことに対する拒否反応が強いことが、顕著な傾向として考えられる。
- なお、可能な限り同様の調査は継続していきたい。
- (2) (1)同様のアンケート調査を、小学校において古典教育が開始された2011年度末に、小学校教員に対して行った。当初の予定では、横浜国立大学附属2校、本学卒業生の赴任先の公立小学校を中心に、広く実施するつもりであったが、学校現場における学年末の多忙さを理由に、断られるケースが多く、また無事実施が許された学校においても、思ったほどには回収出来ず、集計分析を公表できるはまでは至らなかった。今後も継続して、実態調査を行ってきたい。
- (3) 小中高等学校国語教科書・指導書、関連図書、視聴覚教材の収集と公開
- ①本大学において、国語の教科書と指導書が体系的に収集公開されていないので、2009・2010年度には高校の古典関係の教科書と指導書を可能な限り収集した。2011年度には小学校教科書が一新されたので、主要五社1～6年の全国語教科書と指導書を購入した。これらを研究代表者の研究室に常設公開し、必要に応じて自由に利用出来るよう整備した。来年度には中学教科書が一新されるので、同様の処置を講じたいと考えている。
- ②古文・漢文の教材研究に必要な図書、視聴覚教材(主にDVD)の体系的な収集を行い、研究室周辺で教材研究が可能な

よう、環境整備を心がけた。

- (4) 月1回古典教育デザイン研究会(教育人間科学部第3研究棟607室)を開催。研究分担者・協力者・現職教員・大学院生・学部生などが集まって、発表と質疑による「古典力」に関する意見交換の場とし、テキスト作りの内容を検討した。

小学校教員に限定せず、広く古典文学あるいは日本の伝統的言語文化に関する事項についての、学校現場での問題点や、いかにすれば児童・生徒・学生・社会人が面白いと感じることが出来るかについて、様々な提案と討議を行った。

小・中・高・大・一般など、年齢や修得状況で限定せず、様々な人が連携して他角度的に意見交換する中、楽しい古典教育をデザインしていく。約1時間一人が自分のテーマで自由に問題提起、その後自由討論という形式で行う。主なメンバー 横浜国立大学教員・学生・卒業生、その他で、毎回平均15名ほど、年二回の大会には50名ほどが参加する会となった。テキスト完成後も研究会は継続し、生涯学習的な場として、学生と社会人の良き交流の場であると同時に、大学における研究・教育の最新情報、教育現場における実践情報の交換の場としていきたい。

会員にはメール連絡を行っているが、古典教育デザイン研究会のホームページ(www.koten.ynu.ac.jp)を通じて、活動を広く一般公開していきたい。

主な活動記録

2009年度 研究代表者・分担者間での意見交換と構想を検討。

2010年度

6.6 三宅晶子 活動の目的と方法

8.8 於：三溪園鶴祥閣 発足式とテキスト作りについて

9.9 三宅晶子「3面マルチ画像を用いた能」

10.23 飯村洋子「贈答和歌」

11.20 笠原美保子『徒然草』の魅力

12.25 河越弘子「歴史物語と共に考える『源氏物語』」

1.22 岡田充博「象の重さを量る話」

2.26 飯村洋子「和歌の魅力」

2010年度

4.24 高木まさき「新学習指導要領」

5.24 近藤弘子「地獄について」

6.26 山下俊之「浦嶋太郎実践報告」

8.21 於：横浜国立大学教育文化会館小ホール シンポジウム「これからの古典教育」

鼎談：府川源一郎・岡田充博・三宅晶子

9.18 三宅晶子「動き出す言葉一春のあけぼの、秋の夕暮れ」

- 11.27 高梨禎史「小学校における神話教育」
 12.18 青木太朗「高校教育から見る古今和歌集」
 1.22 三宅晶子「『源氏物語』若紫巻一異文比較の効果—
 2.19 安中瞳「浦嶋伝説」
 3.25 於：横浜国立大学教育文化会館小ホール 鈴木彰「敦盛最期」の読まれかた——本文と絵の解釈史——」
 テキスト内容の検討
 2012年度（今後の予定）
 4.22 三宅晶子「『風姿花伝』は英才教育の教科書」
 5.27 笠原美保子「『徒然草』で学ぶ異文化」
 6.24 小日向麻衣「『枕草子』香炉峰の雪・二月つごもり」
 7.22 河越弘子「歴史物語として読む『源氏物語』」
 8.26 於：横浜国立大学教育文化会館小ホール シンポジウム「小学校国語教科書指導書批判」
 以下原則として、毎月第4日曜日、14時～17時（三宅研究室）

(5) テキスト作りの基本方針を確定し、原稿化に着手した。

- ① 対象は小学校教員を目指す大学生、古典を教えなければならない小学校教員
- ② 内容は小学校教科専門国語の授業で使用可能であり、古典に関しての悪いイメージを一掃し、もっと知りたい、積極的に取り組んでみたいという意欲を起こさせるもの。
- ③に題名と作品の簡単な解題
- ④文と現代語訳（4頁程度）
- ⑤自の主張・トピック記事（6頁）
- ⑥『元気づく古典』（256頁、勉誠出版よ、2013年度刊行予定）
- ⑦目次

総論 三宅晶子
 指導要領と小学校における古典教育 高木まさき
 神話（因幡の白ウサギ） 高梨禎史
 「因幡のウサギは白いか」
 竹取物語 山田香織
 「不死の薬を拒む翁と天皇」
 伊勢物語 小島雄樹
 「二条の後像の変遷」
 枕草子 小日向麻衣
 「作られた清少納言のイメージ」
 源氏物語 桐壺巻 河越弘子
 「歴史物語として読む『源氏物語』」

- 古今和歌集 青木太朗
 「晴れの歌」
 生活の中の和歌 飯村洋子
 『源氏物語』巻名和歌 渡辺千穂
 平家物語 鈴木彰
 「『敦盛最期』の読まれかた」
 「巴像の変遷」 小泉彩
 義経伝説 安藤徹 長島裕太
 徒然草 笠原美保子
 「『徒然草』で学ぶ異文化」
 風姿花伝 三宅晶子
 「『風姿花伝』は英才教育の教科書」
 浦嶋伝説 安中瞳
 「浦嶋物語のやってきた道」
 漢文 岡田充博
 「象の重さを量る話」
 「響きあう古典と現代—李賀の白玉楼伝説と「箜篌引」」
 書写 青山浩之
 文学演習旅行 武内可夏子
 古典力調査 近藤弘子
 現職教員からのメッセージ
 藤原悦子・渡辺寛子・芦川幹弘

テキスト完成を目指して、来年度は引き続き古典教育デザイン研究会例会において、執筆予定者を中心に、中間報告を続ける。

本研究における成果は次の3点にまとめることができるだろう。

- i、これまでの古典教育に関して、教員志望の大学生がどのような印象を持っているのか、どの程度の実力を有しているのかに関して、継続的に実態調査を実施していること。
- ii、その実態を認識しつつ、大学の教員・学生・教員をやっている卒業生が集まって研究会を催し、大学教育で使用可能な新しい古典のテキストを作成中であること。
- iii、研究会は今後も継続し、長く広く、古典教育に関する情報交換の場として機能するよう、その基礎を築いたこと。

テキストが刊行され、大学での教科書としてのみならず、一般にも読まれることによって、本研究の成果は広く社会に益する事と信じる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

- ① 三宅晶子、古文は時の方言—江戸時代の子供たちが読んだ「浦嶋太郎」—、横浜国大言語研究、査読有、第30号、2012、44-56
- ② 青山浩之、メモの効率を向上させる国語

力と書写力についての考察、書写書道教育研究、査読有、26巻、2012、70-79

- ③ 高木まさき、他者との関係性を回復する場に、新聞研究、査読有、718号、2011、36-39
- ④ 岡田充博、象の重さを量る話—『三国志』曹沖伝、教材としての可能性—、教育デザイン研究、査読無、創刊号、2009、86-95

[学会発表] (計3件)

- ① 三宅晶子、テキストの可能性—三面マルチ画像の利用—、能楽学会世阿弥忌セミナー、2011. 8. 8、奈良国立博物館講堂
- ② 岡田充博、六朝唐代の小説に見える西域起源の説話について、東方学会第59回全国会員総会シンポジウム、2009. 11. 6、日本教育会館

[図書] (計3件)

- ① 岡田充博、唐代小説「板橋三娘子」考—西と東の変驢変馬譚のなかで—、2012、615
- ② 高木まさき他、初めて出会う古典作品集第二期 全三巻、光村教育図書、2010、333

[その他]

ホームページ等

<http://www.koten.ynu.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三宅 晶子 (MIYKAKE AKIKO)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：20181993

(2) 研究分担者

岡田充博 (OKADA MITSUO)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：40126842

高木まさき (TAKAGI MASAKI)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：40206727

青山浩之 (AOYAMA HIROYUKI)

横浜国立大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号：40323919